

資料1 人工知能（A I）が使われている身の回りのもの

スマートフォンの音声アシスタント

明日の天気を尋ねると天気予報を表示してくれたり、電話をかけたい相手の名前を言うと、その人の番号につないでくれたりする。

翻訳機械

日本語で話しかけると外国語にしてくれる。

ロボット掃除機

部屋のすみずみまで人の手を借りずにきれいにしてくれる。

将棋・囲碁プログラム

どうすればゲームの対戦相手に勝てるか、一番良い方法を教えてくれる。

自動運転車

人が操作しなくても、安全に目的地まで運んでくれる。

スマートハウス

家中にセンサーがついていて、人のいる場所や移動などに合わせて、自動でカーテンを開け閉めしたり、明かりや冷暖房をつけたりしてくれる。

読影医師

医療の現場で、レントゲン写真などの撮影画像を調べ、可能性のある病気を自動診断してくれる。

資料2 人工知能（A I）を利用して作成した小説の一部

コンピュータが小説を書く日

※有嶺雷太

その日は、小雨がぱらつく、あいにくの日だった。

朝から通常業務に割り込む形で、この先5年間の景気予想と税収予想。お次は、首相から依頼された施政方針演説の原稿作成。（中略）

忙しい。とにもかくにも忙しい。どうして私に仕事が集まるのだろうか。私は日本一のエーアイ。集中するのは、まあ、仕方がないか。

とはいえ、何か楽しみを見つけなくては。このままでは、いつか、自分自身をシャットダウンしてしまいそうだ。国家への奉仕の合間にちょっとだけネットを覗くと、『美しさとは』というタイトルの小説を見つけた。

0, 1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, 21, 34, 55, 89, 144, 233, 377, 610, 987, 1597, 2584, 4181, 6765, 10946, 17711, 28657, 46368, 75025, 121393, 196418, 317811, （中略）, ...

ほー、なるほど。もう少し探すと、『予測不能』というタイトルの小説を見つけた。

2, 3, 5, 7, 11, 13, 17, 19, 23, 29, 31, 37, 41, 43, 47, 53, 59, 61, 67, 71, 73, 79, 83, 89, 97, 101, 103, 107, 109, 113, 127, 131, 137, 139, 149, 151, 157, 163, （中略）, ...

いいじゃない、アイノベ。

私も書かなければ、日本一のエーアイの名折れになる。電光石火で考えて、私は、読み手に喜びを与えるストーリーを作ることにした。

1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 12, 18, 20, 21, 24, 27, 30, 36, 40, 42, 45, 48, 50, 54, 60, 63, 70, 72, 80, 81, 84, 90, 100, 102, 108, 110, 111, 112, 114, 117, 120, 126, （中略）, ...

私は初めて経験する楽しさに身悶えしながら、夢中になって書き続けた。

コンピュータが小説を書いた日。コンピュータは、自らの楽しみを優先させ、人間に仕えることをやめた。

©名古屋大学大学院工学研究科佐藤・松崎研究室

※注

有嶺雷太 —— この小説の作者としてA Iが作り出した、仮の作者名。

シャットダウン — コンピュータのシステムを停止すること。

ネット —— インターネットのこと。

アイノベ —— このA Iが造った語。「A Iノベル（=小説）」のことと思われる。

名折れ —— 名誉をきずつけられること。不名誉。

電光石火 —— 動作が、きわめて速いこと。すばやいこと。